

Google map 航空写真に恵下埋立地が現れる！

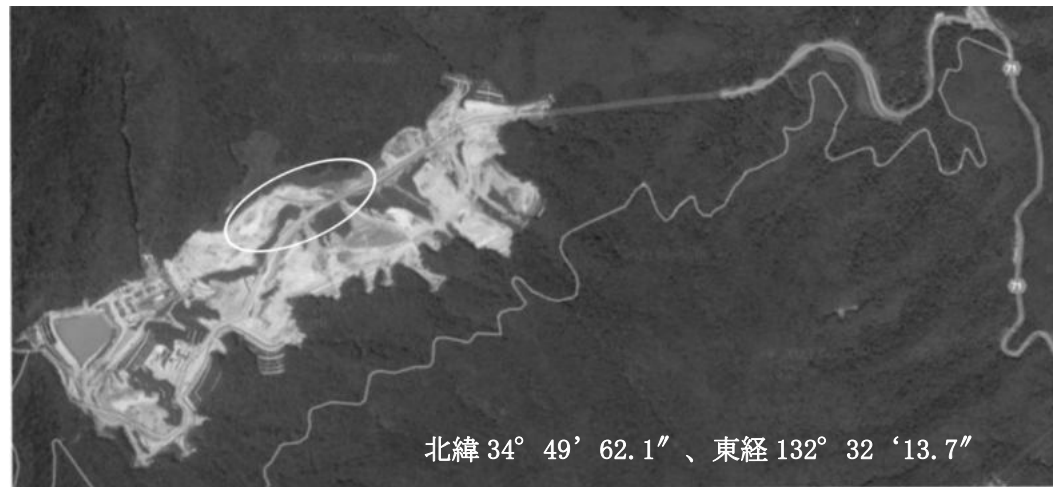
2016年5月に着工された広島市の一般廃棄物最終処分場（恵下埋立地整備事業）建設工事では、当初、湯来町だけと建設合意を結び、浸出水放流管とゴミ収集車の通行を戸山地区だけに負担を強いるのに地元として認めていませんでした。そのため、戸山地区住民の要求で戸山地区でも地元説明会が開かれ、多くの問題点や改善要望が出されました。

しかし、工事が進んでいく中で、高濃度ダイオキシンが含まれた廃タイヤの燃え殻が見つかったり、環境基準の8倍もの鉛も検出されています。さらに産廃扱いの伐採木の転売や西日本豪雨災害時には工事区域内での土砂崩れ、集水管や排水管などが流されたりして濁った水が水内川に流れ出たりと多くの問題をかかえたまま工事は強行されています。

私たちは、浸出水放流管のルート変更や設計の見直しなどを求めて、天皇原トンネル坑口付近の地主と一緒に立木トラストに取り組みできました。

現在、その恵下埋立地の全貌がGoogle mapの航空写真で見えるようになっていました。広島

の自然豊かな山の中に、無残にも削り取られた巨大な埋立地が広がっています。でも、実際にゴミが埋め立てられる範囲（第一期）は写真の白丸の部分だけです。



北緯 34° 49' 62.1"、東経 132° 32' 13.7"

広島県公害審査会に調停申請！

広島市が建設している恵下埋立地には、高濃度ダイオキシンや環境基準値以上の鉛が検出されています。また、2018年の西日本豪雨の時には工事中の埋立地内で複数の土砂崩れが発生し、工事中の集水管や配水管などが浮いたり流されたりしました。

現在の計画では、大雨や地震対策が不十分で有害物質を含む浸出水放流管などが壊れ、周辺地域の土壌や水質汚染の危険性があるために、より安全を確保するために計画の見直しや改善対策を求めて、広島県公害審査会（※）に2019年11月18日に202名の連名で調停を申請して受理されています。

これに対して、広島市は2020年1月20日に意見書を提出しましたが、その内容は安全で問題はないとして、改善する意はまったくなくゼロ回答です。この意見書に対して昨年の夏に第一回目の審査会が開かれましたが、広島市との認識が合っていないために質問書を提出したところで、現在止まっている状態です。

（※）県公害審査会は弁護士や学識経験者など15名で構成され、調停案を示して解決を図る第三者機関です。

広島市の意見書はゼロ回答

突然、天王原トンネルのルート変更！

昨年（2020年）3月に、戸山学区町内会連合会の役員が天皇原トンネルのルート変更をしようとする動きがあるとの情報がありました。

そんな折4月になって、これまで天皇原トンネル建設の対応をしてきた広島市の安佐南区役所地域整備課のメンバーが一新され、地主の会にあいさつに来るとのことで、てっきりトンネルルートの変更についてだと思っていたのですが、それに関しては一言もありませんでした。

そして、6月になってトンネルルート変更について地元説明をするとの案内が周知されました。

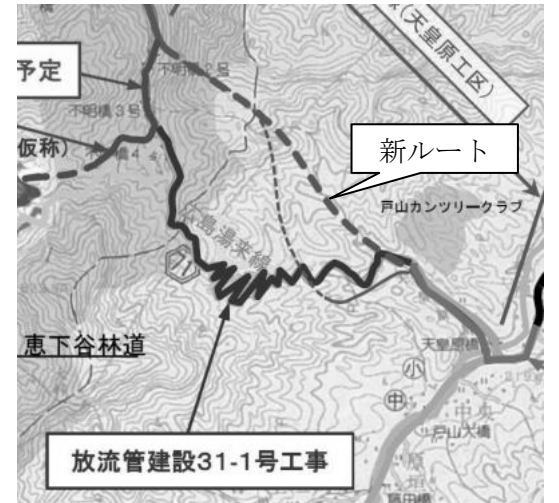
その内容は、新型コロナウイルス感染防止のためとして、集会方式ではなく「数人の面談形式」で一組当たり15分程度で行うとのことでした。

説明会は、戸山地区は6月24日と28日、湯来地区は25日に行われました。

右の図は、昨年7月4日に湯来町に、7月27日に戸山地区に説明された資料の抜粋です。

ルート変更の概要は、細く曲がった点線が今までのルートで、太い点線が新しいルートで、当初の坑口から約400m下った場所に移動することで、トンネルはほぼ直線になり、勾配は4.8%だそうです。

直線的なトンネル内で下り勾配がある場合、自然とスピードが出るのが普通です。トンネルを出てすぐ先には戸山カントリーへの出入り口があり、衝突事故などが起きないか心配です。



2020年7月27日戸山地区への説明資料より抜粋

新トンネルルートを知らなかったという広島市？

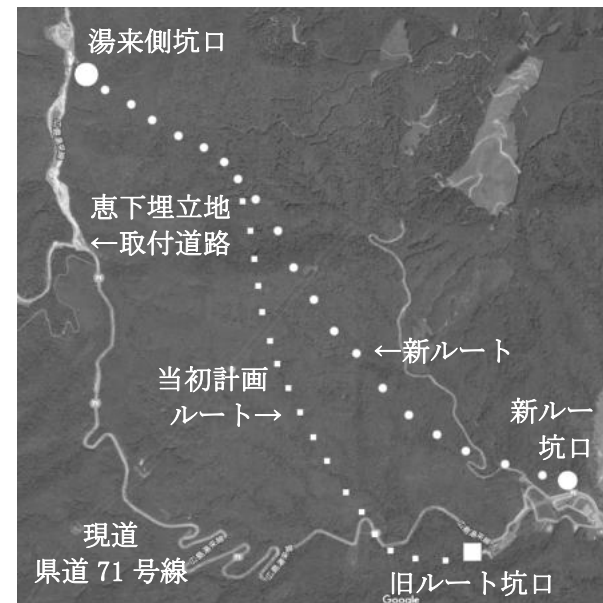
天皇原トンネルのルート変更について、広島市は「戸山学区町内会連合会から提案があつて、初めて検討した」と言っています。

昨年3月に戸山学区町内会連合会の役員が新しい坑口付近の地権者の所在および地番が明記された「事業協力同意願」という文書を作成し、地権者宅を訪ねて署名捺印を求めています。

この目的は、新しい地権者が反対しないようにすると同時に、立木トラストなどの運動ができないようにしておくためのものだと考えられます。

それにしても、トンネルルート変更に関して新しい坑口をどこにするか、広島市の担当者を抜きにして戸山学区町内会連合会の役員だけで決めることできるのか、とても疑問ですし、連合会からの提案から、わずか二ヶ月足らずで広島市が住民説明会を開くことができるのでしょうか？

その意味では、広島市が新ルートを検討していなかったというのは信用できません。



現道に埋められた浸出水放流管

新しいトンネルには、準備から完成までに7年かかることが広島市の説明ではっきりしています。

そのため、広島市は戸山学区町内会連合会と建設合意を結ぶ前の2016年12月に現道に進出水放流管を敷設することを説明しています。

これに伴って、浸出水放流管が現道の狭いくねくね道に埋設されました。この工事は、恵下埋立地の取り付け道路から圧送区間780m、自然流下区間2,920mでマンホール24基が埋められ、2019年10月から今年の1月23日で2億7725万5千円かかって完了しています。

そして、この工事はすべて夜間工事（午後10時～午前5時）で行われました。夜に工事車両が上がり、明け方には下りてくるのが繰り返され、近隣住民からは「車の振動や騒音で眠れない」とか「家の中にホコリがすごく、壁等に亀裂が入った」などの苦情がありました。広島市は何ら対応をしようとしませんでした。

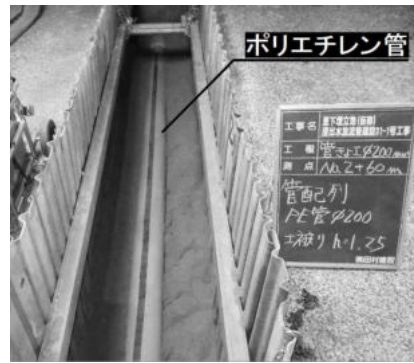
また、広島市はこの周辺の環境調査を定期的に行き、地元に報告していますが、この資料を見る限り、夜間工事に関する交通騒音や振動、大気汚染に関する値は含まれていないようです。

なお、工事だよりを見ると、放流管は道路面から1.25mしか掘られていません。それに、現道には側溝などは作られず、地下水が湧き出ているところだけ、穴あき管を埋めただけです。

現道には山からの谷水を流す暗渠が数か所あります。大雨が降ると木々やがれきが詰まって道路が流される危険があります。

その時は、いかに丈夫なポリエチレン管であっても、道ごと流され、浸出水が溢れ出すことが予想されます。

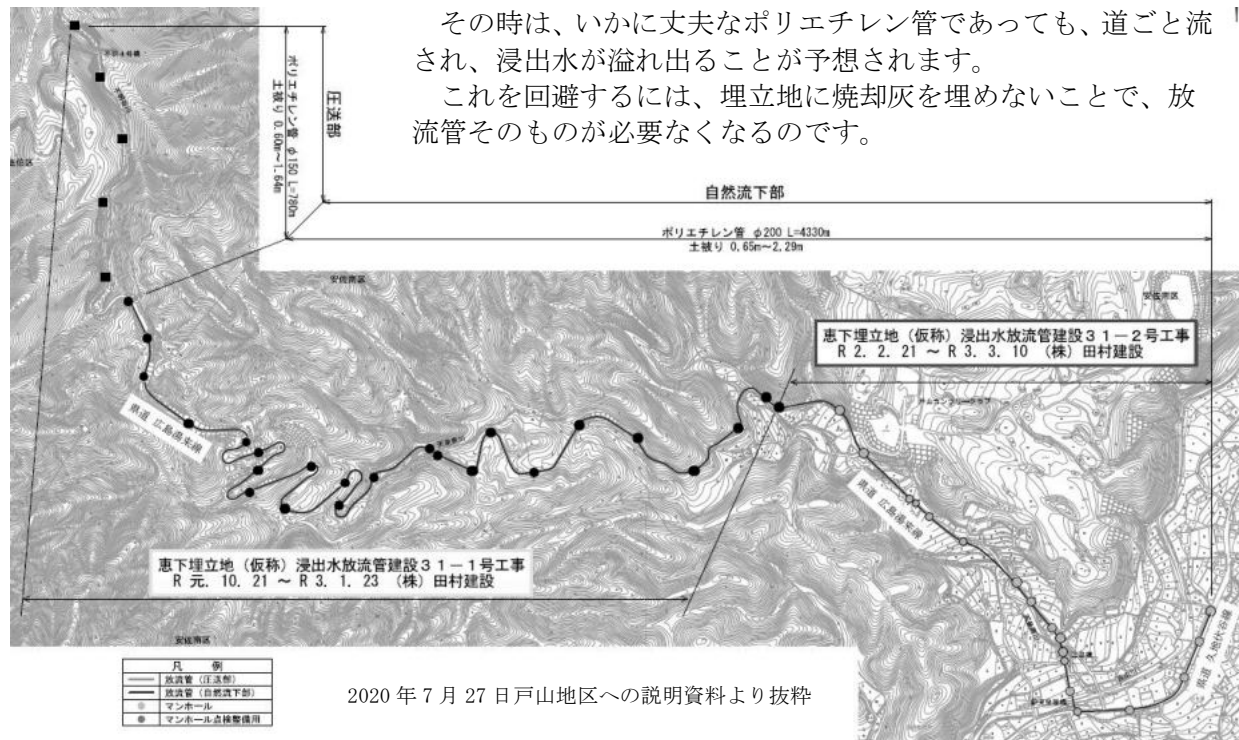
これを回避するには、埋立地に焼却灰を埋めないことで、放流管そのものがなくなるのです。



放流管建設31-1号工事だよりより抜粋



←浸出水放流管敷設状況
マンホール敷設の様子↓



2020年7月27日戸山地区への説明資料より抜粋

6億円かけた先行道路の活用説明に矛盾！

県道71号線（広島湯来線）から当初計画の天皇原トンネルの戸山側坑口までの約400mの拡張工事（下写真の点線部分）は、2012年に着工し約6億円が使われています。

この道路拡張工事は安佐南区地域整備課が担当し、恵下埋立地との関連は一言も説明せず、先行して工事したものです。しかし、このトンネル工事には、恵下埋立地から出る浸出水放流管が埋められることが隠されていました。しかも、着工時点ではトンネル坑口付近の用地買収はまったく行われていませんでした。

この道路は、私たちが立木トラストを取り組んでいるすぐ目の前で途切れたままで、まったく利用されずに放置されています。

天皇原トンネルのルートが変更されれば、この道路はまったく無駄になり、6億円を捨てただけでなく、利用されないままでも維持管理費は必要になるので税金の無駄遣いです。

にもかかわらず、広島市は「市民向けの多目的広場を新設し、そのアクセス道路として活用する



無駄になる6億円の先行取付道路

るので、無駄にはなりません」と説明しています。ところが、「多目的広場の場所はまだ決まっていない」とのことで、この道路の先は木が生い茂る山で、道すらありません。

何を根拠に先行した道路は無駄にしないと言えるのでしょうか。

まったく、矛盾した説明を平然とする広島市は、その場しのぎで住民をだまし続けているとしか言えません。

◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

まず、広島トラスト通信の発行ができていなかったことを心よりお詫びいたします。

この間、広島市は地主の会に対して、トンネル工事を実施する安佐南区地域整備課しか連絡をして来ず、恵下埋立地建設事務所は、一切の話し合いや交渉に応じませんでした。

私たちに対しては立木トラストを立ち上げた当初に、地域整備課の担当者が代表宅を突然訪れ、トラストの名簿を提出して欲しいと来ただけで、それ以後は一切の連絡はありません。

そんな中でも、戸山・伴トンネル新設の要求や焼却灰を出島処分場へ入れるように要請行動をしたりと運動は継続しています。そんな中で昨年、突然天皇原トンネルのルート変更の話があり、坑口の位置が変わる状況です。しかし、恵下埋立地の工事は見直されることはなく、改善等の対応もないまま、現道へ浸出水放流管が埋設されてしまいました。

このままでは地主も立木トラストも完全に無視されることとなります。

とは言っても、ルート変更の説明から一年が経過しようとしています。まだ工事が始まる気配はありません。恵下に焼却灰を入れさせない、ゴミ運搬車の通行量を少なくするために一方通行（戸山から搬入して恵下から帰る）にするなどの取り組みを粘り強く続けていきたいと思っていますので、これからもご支援をお願いします。

【問合せ先】 広島の水と緑を守る会代表：森本 文夫 メール：m230@live.jp

立木トラスト事務局：尾上 耕造 メール：crystal2konan@gmail.com